



▲聖龕に納められた修復後の孔子像
▶横尾市長に寄附を手渡す、中川副理事長

みなさまのご厚意に感謝します

孔子像修復募金の寄贈式

多久聖廟創建300年を契機に、聖廟に安置されている孔子像（1701年製作）を修復するために、財団法人「孔子の里」では広く寄附を募られ、市民をはじめ全国の皆様からたくさんの厚意が寄せられました。

1月19日、市庁舎において、これまでに寄せられた467件、総額3,781,003円の修復募金が「孔子の里」の中川正博副理事長から横尾市長に渡されました。



孔子像はすでに修復を終え、昨年10月25日には聖廟への遷座式も執り行われました。市では、予想以上に寄附が寄せられたため、孔子像とともに安置されている顔子・子思子・孟子・曾子の「四配の像」の復元のための費用に、みなさまからの寄附金を活用させていただくようにしています。

15歳の決意を四字熟語で表す

西溪中で立志式

西溪中は、「吾十有五にして学に志す」と論語の教えに習った15歳の決意『立志式』が新春の1月9日、多久公民館で行われました。中学2年生が一人ひとりの「15歳の誓い」を四字熟語にして、「一生懸命」「勇往邁進」など色紙に書いた文字の意味と決意を同級生や保護者の前で発表。この日、保護者は心を込めた「ぜんざい」を振る舞い、子供たちの成長した姿に「自分の決意を努力して将来の夢を実現してほしい」とエールを贈りました。最後に、尾形圭祐生徒会長が「15歳の誓いを言う事で目標を持って、大人に近づけるように頑張ります。志を聞いてもらってありがとうございました」とお礼を述べました。



▲四字熟語を色紙に書き、志を新たにした西溪中生徒



▲「論語をもっと多くの人に親んでもらおう」と制作したこよみを持つ児童生徒の代表と関係者

全クラスで論語に親しんで！

孔子の里が小中学校に“日めくりこよみ”贈る

「論語に学び、日々頑張ってもらいたい」と、財団法人「孔子の里」は、市内の全小中学校に『論語日めくりこよみ』を贈りました。1月9日、市役所で贈呈式を行い、中央中2年の桃崎勇希君と北部小6年の牟田修一君、古賀由美子さんが受領。クラス毎に使える85冊の寄贈に応え、桃崎君は「多久で育ったおかげで論語と関わることが多く、孔子様の教えは、現代に生きる僕たちにも納得したり、考えさせられることばかり。もっと論語を知り、学校生活に生かしたい」とお礼を述べました。

昨年募集した「あなたの好きな論語の言葉」と「聖廟のスケッチ」を掲載している毎月使える日めくり式カレンダーとなっているこのこよみは、「孔子の里」(☎75-5112)と多久市物産館(☎74-2502)で購入できます。